

令和7年5月1日

竹早教員保育士養成所
所長 赤津 裕子 殿

竹早教員保育士養成所
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会実施報告

令和6年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員会出席状況

【出席者】

吉澤 猛 (学校法人彰栄学園彰栄保育福祉専門学校 校長)
佐々木 妙子 (一般社団法人慈愛会慈愛会保育園 園長)
湯澤 都与子 (竹早教員保育士養成所同窓会 理事)
赤津 裕子 (竹早教員保育士養成所 所長)
高橋 武郎 (竹早教員保育士養成所 副所長)
大井 靖 (竹早教員保育士養成所 学生部長)
柳戸 誉彦 (竹早教員保育士養成所 事務長)

【欠席者】

佐藤 良文 (学校法人明照学園明照幼稚園 園長)

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

令和7年3月6日 木曜日 午後3時から
会場：竹早教員保育士養成所 第3校舎第7教室

III. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

1. 学校の理念、教育目標

明治21（1888）年創立以来、「誠実で有為な幼稚園教員、保育士を養成する」ことを、理念・目的にかかげて教育実践に取り組んできました。

「誠実」とは私欲を離れて正直にまじめに物事に取り組むことであり、人間にとって最も大切な基本的な資質の一つである。「有為」とは才能があり人の役に立つということであり、幼稚園教員、保育士にとって欠かすことのできない資質・能力であることを確認しました。

2. 重点目標と達成計画

「誠実で有為な幼稚園教員、保育士を養成する」ことをねらいとしており、次に示す能力や知識・技能を身に付けるために教職員が一体となって取り組んでいることを確認しました。

令和6年度の重点目標は、能力や知識・技能を身に付けるために以下のようにしました。

- (1) 保育者としての専門性を高めるための機会を充実させる。
- (2) クラブ活動や行事からの学びを充実させ、保育者としての資質や能力の向上をめざす。
- (3) 多様化する学生一人一人の課題に丁寧に対応する。
- (4) 地域連携による「保育補助活動」の充実を図り、実践力を高める。
- (5) 実習と実習指導の充実を引き続き図る。

さらに学生募集については、学校説明会やガイダンスに加え、高校訪問により本校の魅力を伝えていく。

令和6年度の達成計画は、幼稚園教諭、保育士の資質を養成するために以下のようにしました。

- (1) 保育者に求められる資質・能力に対応できる授業内容の充実をめざす。
- (2) 学生の授業への出席を重視して対処する。
- (3) 1・2年合同のクラブ活動の体制を整え、集団の一員としての自覚を高め、協力・協調を通して保育者としての資質・能力の向上をめざす。また、学生の実態を踏まえ、学生の自主的活動の促進をめざす。
- (4) 学生の多様化により、学生一人一人の課題を把握し、受け止め、丁寧な対応を図る。特に担任、教務部長を中心に全教員で対応していく。
- (5) 地域連携を密にし、引き続き「保育補助活動」を実施し、学生が達成感をもてるよう検討する。計画としては、表現指導法と保育・教職実践演習とがタイアップし、ミニプログラムを企画し、近隣の児童館、幼稚園、保育所で発表する形にする。そして、子どもとの関わりを通して実践力を高めることをめざす。
- (6) 実習の事前指導・事後指導を充実させ、実習での学びの充実を図る。専門の担当者を置き、長期の見通しをもって、内容・方法を見直し、検討していく。
- (7) 豊かな人間性や保育者に求められる人間力を養うため、学校行事の一層の充実を図る。

3. 評価項目別取組状況の質疑意見は以下のとおり

(1) 基準1 教育理念・目的・育成人材像

本校のディプロマポリシーと授業内容とのつながり、クラブ活動や行事から得られる学びなど竹早教員保育士養成所の伝統や魂をこれからも引き続き大切にしていけることを確認しました。

(2) 基準2 学校運営

ここ数年、18歳人口減少、保育業界の人気の低迷、大学進学率の上昇などにより、本校の定員充足率が下がっています。対策として高校ガイダンスに一層力を入れ、ホームページの充実、学校案内パンフレット、学校紹介映像そして、高校訪問にも引き続き力を入れ、募集活動を実施してきました。今後も引き続き、具体案を検討して実施していきます。

また、人事については養成校としての基準が明示されている。望ましい人材を確保するためにも学生の確保が最重要となっていることを確認しました。

(3) 基準3 教育活動

教育課程にかかわる委員会を設置し、教育課程の編成について定期的に見直し改定を行っています。またキャリア教育の実施にあたり内容・方法の検討を重ねています。さらに教員の資質向上のための研修体制を充実させていくことを確認しました。

保育者の資質を求められる時代になっているので養成校と実習園で学生を育てていく姿勢が大切であるご意見がありました。

(4) 基準4 学修成果

教育課程に加え、特別研修や就職ガイダンスなどを効果的に組み入れています。また、教育実習・保育実習の他にも近隣幼稚園・保育所・児童館との連携による実践的授業、保育者として必要な力量が総合的に学べるよう取り組み、成果をあげています。

就職関係は就職を希望する学生は100%の実績を挙げています。

(5) 基準5 学生支援

学生支援は、クラス担任制を導入しており個別に相談しながら欠席や遅刻のフォローができる環境になっています。

経済的な支援は、学校独自の奨学金がないことから、日本学生支援機構の給付奨学金、貸与奨学金、各自治体の保育士修学資金の紹介、学費の延納・分納にも対応してできるだけ学費納入で困らないよう事務室で支援しています。

クラブ活動では保育に役立つ内容のクラブがあり、経験の一助となるよう工夫しています。

(6) 基準6 教育環境

校舎設備は予算の関係上、優先順位が高い順に取替更新や修繕をしています。例年とおり施設設備を大切に使用しています。防災面では、引き続き大震災に備えていくことを確認しました。

(7) 基準7 学生の募集と受け入れ

学生募集は東京都専修学校各種学校協会の基準に基づき、適切に行っています。18歳人口の減少、保育業界の人気の低迷の波は本校にも押し寄せています。

募集活動は以下の①から③の流れが基本となっています。

- ①高校内ガイダンス、高校訪問、インターネットを活用した広報活動
- ②学校説明会に参加
- ③本校を受験

いかに学校説明会などに参加していただくか、来校していただくことがポイントになっていると確認しました。

(8) 基準8 財務

私立学校法、寄附行為、学校会計基準などに基づき、適切に運営しています。収入のほとんどは学生生徒納付金であり、年々受験者数が減少していることが最大の懸念事項となっており、無理のない経費削減も引き続き実施していくことを確認しました。

(9) 基準9 法令等の遵守

今後も毎年年次報告、業績報告等、各種報告調査に求められている法令、規準等を遵守していくことを確認しました。

(10) 基準10 社会貢献・地域貢献

今後も社会貢献・地域貢献を継続して実施していくことを確認しました。

4. 令和6年度重点目標達成についての自己評価

今年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、これまでの制限が緩和され活動の幅が広がりました。

令和6年度の重点目標達成の自己評価は、以下のようになりました。

- (1) 授業では、完全に対面授業ができるようになり、学びの機会をしっかりと確保することができた。
- (2) クラブは1・2年生合同の活動が再開され、異学年の交流が実現した。行事については、体育研修を再開し、保育研究発表会では外部の参加、卒業式には在校生の参加等実現した。
- (3) 担任を中心に気になる学生への丁寧な対応、指導の成果として欠席・遅刻の回数が例年に比べ減少した。
- (4) 「保育・教職実践演習」と「表現指導法B」をタイアップさせ、昨年に引き続き地域の児童館・幼稚園でミニプログラムを企画し、実施した。
- (5) 実習にむけての事前事後指導の内容の見直し、充実を図り、実習後に情報交換を行い、改善にむけて実習委員会で検討を行った。

学生募集については、学校説明会を増やすなどしたものの、募集状況は厳しい結果となった。